

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第176版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループログも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家絵本家 聴福庵



3階は季節ごとの取り組みや身長・体重の変化を感じられるフロア！ 階ごとに子どもたちの発達を感じられる展示の工夫がされていました。

## 成長展てなんだろ？ ～さかいりんごの木保育園～

たそうです。そこで、今年は美術館をイメージして掲示物を貼るスペースにゆとりを持たせ、ゆったり見られるようなイメージを大切にしたいと仰っていました。

また、シルエット画や塗り絵を吊るすワイヤーは、成長展を行っている他園にどの商品なのか教えていただき使用したことで、これまで以上にきれいに、かつ早く吊るすことが出来たそうです。さらに今回は初の試みとして試食ブースを設け、親御さんも子どもたちのおやつを食べられるようになっていました。

さかいりんごの木保育園様の「成長展」は午前・午後の2部制で、午前中は在園児の保護者、午後は保育関係者の見学時間と分かれており、卒園児の親御さんも参加できる時間に。卒園後の大きくなった子の姿に、先生方からは感嘆の声が上がり、園内は和や



【さかいりんごの木保育園様のインスタグラム】  
日々の様子が定期的に投稿されています！  
また、小峰園長と奥山の2ショットもアップされています！

かな雰囲気の流れっていました。また、4月から入園する親御さんも招待し、入園前から園の雰囲気を感知られる機会としているのだそうです。

見学時に配布された資料の表紙に「『成長展』ってなんだろ？ それはね、子どもの成長を親子と一緒に確認しながら喜ぶ行事です。」とありました。各ブースを担当されている先生のお話（子どもたちのエピソード）や表情からも、成長展で大切にされている想いや保育の楽しさが伝わってきました。

さかいりんごの木保育園様のインスタグラムには、今年の成長展の写真が公開されています。昨年の写真もアップされていますので、ぜひ検索してご覧ください！

（奥山卓矢）

## 夢見る給食

先日、「夢見る給食」という映画を観ました。オオタヴィン監督の著書「子どもは、ミライだ！」の中で「ひとりの子どもは、すべての“過去の果実”であり、“ミライの種”です。命は単体の存在ではなく、過去とミライをつなぐ生命の環（cycle）なのです。」と表現されていました。子どもたちは私たちが作った社会で育まれた、「私たちを省みる鏡」なのですね。

本作では子どもたちの身体を作る「給食」について、多くの学びを得ることが出来ました。第二次世界大戦が終わった1950年代から化学肥料と農薬が広く使われるようになり、土地が痩せていくことで、野菜に含まれる栄養素（ミネラル）は2000年までの50年間で6〜10分の1ほどに減少しました。※文部科学省日本食品標準成分表より（下図参照）

現代の野菜は、大きく食べやすく改良されてきましたが、肝心の栄養素が減少しているのです。「安く大量に製造できること」を選択し続け



ぜひ、皆さんも映画をご覧になってみてください！

この映画の素敵なところは、大人も子どもも自治体も地球も、みんなが幸せそうに笑顔をいられる実践を紹介していることだと思います。北風ではなく太陽のように、観るものの心を育んでくれるように思います。（眞田海）



カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## お花見

今年は暖冬の影響で桜の開花は全国的に平年より早まるところが多いそう、場所によってはそろそろお花見シーズンですね。そんなお花見には予祝（よしゆく）の意味があるのをご存知でしょうか。予祝とは、あらかじめ祝う前祝いのこと。実は、昔は豊作祈願の行事として行なわれていたといひます。

桜は、春になって山から降りてきた田の神様が宿る木とされていたため、桜の咲き方でその年の収穫を占ったり、野生のヤマザクラの様子を見て農家の人たちは田植えをするなど目安にしていたそうです。

「サクラ」の語源には諸説ありますが、一説によると「サクラ」の「サ」は田の神様、「クラ」は神様の座る場所という意味があり、「サクラ」は田の神様が山から里に降りて来られる時に、いったん留まる依代（よりしろ）を表すとされています。

また、桜の花が稲の花に見立てられ、その年の収穫を占うことに使われるなどしていたため、「サクラ」の



今年はどこでどんな桜とどんな風に出逢えるでしょうか。

代表として、桜の木が当てられるようになったという説もあります。桜のもとで田の神様を迎え、料理やお酒でもてなし、今年の五穀豊穡を「予祝」という形で祝いして、人も一緒にいたたけようが、本来のお花見の意味だったようですが、今でも「引き寄せの法則」などある中で、昔から日本人はそんな風に先に喜びお祝いをする事で、願いを引き寄せていたなんてすていですね。

毎年、何気なく行っている行事や、行楽と想っていたことでさえ、由来や背景を辿ると稲作文化と繋がっていることが分かり、驚くことばかりです。今年は、夢や希望を胸に予祝からお花見をしてみたいかがでしょうか。

（宮前 奈々子）

## 改善文化と真摯な実践

一期一会庵

私たちの会社では改善文化というもの根付いています。振り返り文化もあるのですが、そこから改善文化に発展してきました。改善を楽しみ、その改善するところを伸びしろとしてみんなで楽しく取り組んでいます。そのためマンネリ化というものもなく、最近ではその改善文化そのものを改善してみようと盛り上がったくらいです。

よく考えてみると、本来は意味のあったものが繰り返していかなくなることがあります。それを初心ともいいますが、初心を忘れてしまいう価値が失われそれをただ続けるかやめていくのです。これはとてももったいないことだと感じます。

この世の中に限らず、日々の仕事も暮らしも同じことは二度となく、変化し続けています。変化しているからこそ、意味や本質は変わらないまま守られるものです。

経営というものの何を覚えて何を変えないかが重要で目的を忘れた経営は凶器にもなるといひます。組織というものは目的に対して形成したチームですから、チームが常に全体最適になるように変化には特に意識

を向け続ける必要を感じています。その中で改善文化というのは、とても有難い仕組みです。

その仕組みとして私たちの実践を少しご紹介すると、一つは善かったことをみんなで探します。そして困ったこと、そしてそれをどうさらに善いことへ転じようかと場を持ちます。もともと私たちの会社は保育を実践する会社になっていますから、何でも発達や場や見守ることに置き換える癖があります。この改善の仕組みで、年中行事をはじめ働き方や暮らし方、仕事の組み立て方やプロセスまで何でも善いことに転じていきます。

一円対話も私たちは毎週、金曜日に1時間以上とって実践しています。こういう一つ一つの実践の御蔭で、目的を見失わずにみんなで気持ちを新たに取組んでいます。

子ども第一義という、子どもの憧れる生き方や働き方を通して保育やお客様に貢献したいと取組んできてもうすぐ23年目になりますが、この改善文化の仕組みもお客様に提供できる日が来ればきっと現場の先生方のお役に立てるように思ひます。

まずは自分たちが一番善いと感じられるようになるまで取組み、その一番善いと思ひることを伝えていけるように日々の真摯な実践を楽しんでいきたいと思ひます。

（野見山 広明）

### 編集後記



長い冬から春への過程を経て開花を迎えるのですね。

3月は卒業・卒園シーズンですね。卒業にまつわる言葉に『有終の美』があります。『最後までしっかりとやり通し、立派な結果を残す』という意味だそうです。『終わりをければ全てよし』という言葉もあります。『結末さえよければ過程

は問題にならない』という意味で、似て非なる言葉のようひです。成長展も、カグヤの振り返り・改善文化も『過程』を大切にします。自分や家族、仲間たちの成長を味わいながら新年度も前に進んでいきたいですね。

（眞田 由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

